

令和2年度 学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
1 前年度 評価結果の概要	・13項目のうち、A評価は4項目、B評価は8項目、C評価は1項目という結果となった。 ・学校目標の達成に向けて、全職員の知恵を結集し、手立てを更新し、さらに高みを目指していきたい。一番の課題は、超勤時間の削減である。早く帰ろうという意識はあるが、実際に業務が終わらない。丁寧にしようとする超勤が増える。これまで以上に計画的に業務を行うことや見直しが必要だ。
2 学校教育目標	えがお かがやく 高小の子供 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」～
3 本年度の重点目標	「郷土愛の育成」「ほめほめ活動の推進」「『時を守り 場を清め 礼を正す』の徹底」が本校の特色である。これらの特色をより強固にしなが、ますます『えがお かがやく 高小の子供』を育てる。 ○「時を守る」・・・「時間を守る」 ○「場を清める」・・・「整理整頓をし、清潔にする」 ○「礼を正す」・・・「相手を尊重し、礼儀正しくする」 ○「時・場・礼」の基盤・・・「早寝早起き朝ごはん」「高小流あいさつ」

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価		主な担当者		
(1)本年度重点的に取り組む独自評価項目(本校の特色)				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組							
◎志を高める教育(郷土愛)	○佐賀や日本の導き手を育成するための地域(家庭)の協働意識の向上	○「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている。」と答える児童を80%以上にする。	・地域住民(保護者)に学校行事への参加・参画を依頼する。 ・児童が地域行事に参加しやすいように、地域からの情報を学校でも伝える。 ・職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事(夏祭り、文化祭など)に参加・参画する。							主幹教諭 指導教諭 教頭
○「ほめほめ活動」	○自己肯定感・自己有用感の高揚	○「友達のよいところを認め、ほめている。」と答える児童を80%以上にする。	・各学級で、帰りの会等を利用して、級友を認め合う。 ・給食の時間に「ほめほめタイム」を実施し、全校児童を呼名してほめ合う。 ・計画委員会で「ほかほかポスト」を設置し、「友達の善行」「してもらってうれしかったこと」を募り、紹介する。							指導教諭 教頭 主幹教諭
○人間形成の土台づくり	○「時を守り 場を清め 礼を正す」態度の育成	○「『時を守り 場を清め 礼を正す』に気を付けて生活している。」と答える児童を90%以上にする。	・朝の放送、昼の放送の時、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉から始めることで、常に児童に意識させる。							主幹教諭 指導教諭 教頭
(2)共通評価項目(重点4項目)				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
●学力の向上【時】	○児童が自ら進んで学習活動に取り組む授業の実践	○「授業中、自ら進んで学習活動に取り組んでいる。」と答える児童を80%以上にする。	・自力解決を促すような学級共通の「問い」を設定する。 ・すべての児童が自律的に学習に取り組めるよう、業間の過ごし方や授業の進め方、授業の流れを全校で統一して共通確認して実践する。							まなび部 高木 江口
	○児童が自ら進んで取り組む家庭学習の充実	○「自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。」と答える児童を90%以上にする。	・授業と関係付けた宿題の出し方や自主学習の在り方を検討し、学年の実態に応じた内容や量を提示する。 ・家庭学習に頑張っている児童の自学ノートを掲示する。 ・「すこやか点検」で家庭学習時間を確かめる。							まなび部 中野 山田文
	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・PDCAサイクルを意識した単元ごとの振り返りをもとに、指導の工夫改善を行う。							
●心の教育【場・礼】	○整理整頓の意識付け	○「履物をそろえている。」と答える児童を90%以上にする。	・靴や上靴、トイレのスリッパは、周りの人に配慮し、そろえるように指導する。 ・ISOチェックシートを使って、毎日意識付けを行う。							くらし部 田原 築波
	○無言・無音掃除の徹底	○「話をせず音も立てずに、掃除をしている。」と答える児童を80%以上にする。	・掃除時間の前には掃除場所待ち、始まりとともに黙想をし、心を落ち着かせて無言・無音掃除をするよう指導を徹底する。 ・掃除前に全校放送を行うことで、無言・無音掃除の意識付けを図る。							くらし部 徳久 江頭宏
	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「『さん』を付けて友達を呼んでいる。」と答える児童を80%以上にする。 ○「目上の人に、『です』『ます』の敬体で話している。」と答える児童を90%以上にする。	・「児童の人権を尊重し、教師自らが模範を示すことで、「さん」を付けて呼ぶことを意識させる。 ・「時・相手」を視点に置いた指導を維持するとともに、授業中の発表の際には、返事を怠ることなく、最後に「です」「ます」を付けることを徹底させる。							こころ部 梶浦 向井 江頭美
●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている。」と答える児童を90%以上にする。	・日々の児童の言動等を注視するとともに、毎月「こころのアンケート」を実施することで、積極的にいじめを見付け、早期に対応する。 ・気がかりな児童には、個別の対応を継続する。 ・危機管理マニュアルやいじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを用いて、いじめの兆候があった際の組織的対応を共通理解したり、生指相会議で情報の共有を図る。 ・いじめ対応についての研修、ケース会議等を適時行う。								こころ部 田島 岩橋
●健康・体づくり【基盤】	●望ましい生活習慣の形成	●「『早寝早起き朝ごはん』を意識して生活している。」と答える児童を80%以上にする。	・「すこやか点検」で、項目に「10時まで(に)就寝」「決めた時刻までに起きる」「朝ご飯を食べる」を入れ、集計をとる。 ・保健便り、給食便り等で、早寝早起き朝ごはんの大切さを呼びかける。 ・「食に関する指導の年間計画」に基づき、各学年の実態に応じた指導を行う。							からだ部 福田 川原 宮島
	○「高小流あいさつ」を習慣付け、学校や地域(家庭)でも、「時と場に応じて、『立ち止まって、お辞儀をして』あいさつをしている。」と答える児童を80%以上にする。	・毎朝、計画委員会で「あいさつ運動」を実施し、毎日、給食時間に「あいさつ名人」を紹介する。 ・全校朝会で「高小流あいさつ」を紹介し、学期1回、「あいさつ名人」を発表し、「あいさつ名人バッチ」と賞状を与える。 ・「めざせ! あいさつ名人」のポスターを作成・掲示し、日頃から意識できるようにする。								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360時間)を遵守し、勤務時間を意識した働き方を定着させる。	・部会分掌とともに、学年主任と部長の分離、ミドルリーダーの重責化を促進し、業務の平準化を図る。 ・士気を高めて児童と向き合うために「成績2期制」を実施し、評価時期には約10日間の特別校時を設定する。 ・会議数(時間)を精選するとともに、同僚同士声を掛け合うことで定時退勤日(金曜日)の徹底を図る。							教頭 主幹教諭

●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育
5 総合評価・次年度への展望